

## 第 29 回番組審議会議事録

- 1 . 開催年月日 平成 23 年 4 月 26 日(火) 午前 10 : 00 ~ 11 : 30
- 2 . 開催場所 箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階 COM 倶楽部会議室
- 3 . 委員の出席 委員総数 10 名
- 出席委員 7 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、稲井信也、牧野直子、須貝昭子、  
中村 保、中 宏、高谷和彦  
以上 7 名
- 放送事業者側出席氏名 尾池 良行 (代表取締役)  
岡田 堅治 (取締役)  
大平麻由美 (編成課長)  
永田 純子 (編成課員)  
野間 耕平 (編成課員)
- 4 . 議 題 1 ) 番組 「オンガクノススメ~卒業生を祝うスペシャル」  
番組 「卒園スペシャル」  
2 ) 審議  
3 ) その他番組に対する意見
- 5 . 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

## 6. 審議内容

### 1) 番組

#### (1) 事務局より番組説明

今回ご試聴いただきましたのは、「オンガクノススメ～卒業生を祝うスペシャル」と「卒園スペシャル」で、「卒業」「卒園」をテーマにした番組です。

まず、「オンガクノススメ～卒業生を祝うスペシャル」は、リクエスト番組「オンガクノススメ」を、箕面市立中学校の卒業式の日併せ、卒業生を祝うということで卒業生からのメッセージ、先生から生徒へのメッセージを織り交ぜながら、先生、そして卒業生からのリクエストで1時間を構成しています。日頃、地域の中学生を見かけることはあっても、普段何を考えているのか、意外と自分の子どもが通っていないと分かりにくいな、と思っていました。そういった生の声、みなさんが中学校生活を通して感じてきたこと、メッセージを通じて、今の中学生はこういう感覚か、とか、こう言うことを考えながら過ごしてきたんだ、というのを伝えたい、ということ、保護者や学校の先生にとっても思い出になる、生徒にとっても思い出になるもの、ということで作りました。約5年ほど、毎年放送しています。今年始めて全市立中学校の参加が叶いました。学校側にも浸透してきていると思います。

また、「卒園スペシャル」は、夕方のワイド番組「816ラジオ日和」の冒頭で、1ヶ月にわたって1日に1園ずつ紹介しました。箕面市内にある保育所・幼稚園、24園の年長組の子どもたち、約1060人の歌を取り上げました。また、歌のあとに担任の先生から子どもたちへのメッセージも合わせて紹介しました。企画意図は、これまで小学校の子どもたちの歌声はラジオの中で紹介してきましたが、さらに年齢を下げ保育所・幼稚園の幼児の歌声も紹介したいな、と思っていましたし、何よりも保護者のみなさんが行事のたびにビデオカメラを持って出るくらい自分の子どもたちが晴れの舞台に立つことをこれだけ熱心に見守っているのだな、ということが経験からありまして、これをラジオで取り上げたら保護者のみなさんはこぞってラジオを聞いてくださるのではないかと、という思いがあり、これまでタッキー816を聞いたことがないかたにとっても、一度聞いてみようかという機会になるのではないかと思い企画しました。

## (2) 審 議

委員長：それではご意見をいただきましょう。

委員：まず「卒業生を祝う…」から。企画の勝利かな、ということで、非常に快く聴きました。音楽のリクエストの内容も、先生たちのリクエストも、快く聴くことができました。こういう企画物は、表には出てこないが必ずバックに作り手の伝えたいメッセージが必要だと思います。実際意図されたかどうかは分かりませんが、「感謝と絆」という一つのテーマがあって、子どもたちを通じて非常に良く伝わった、というイメージで聴いていました。

次の「卒園スペシャル」。これも非常に面白い、良い企画だと思っています。ただ、一つ気になったのは、子どもたちが歌ではなく、ただ叫んでるように聞こえたところがありました。しっかりリハーサルをして、きちんと音楽を届ける、というスタンスが必要だと思いました。あと、親たちに聞かせるという話がありましたが、この時間帯は適正なのかな、と。つまり、母親たちが聴ける時間なのかな、と疑問を感じました。幼稚園に通わせている30代くらいの女性は厳しく、1回聞いて面白くなければ逃げる。マーケティングが非常に厳しい層。こういう人たちをターゲットにするには、慎重に、というか、1回聞いて、もう1回聞いてみようと思えるように、普通のつくり方よりちょっと慎重になる必要があるのではないか。企画そのものは非常に面白いので、次回から一人ずつ声を入れてみるとか、もう1回聞いてみたいという番組になれば最高だと思いました。

委員：どちらも季節柄良かった。「卒業を…」ではDJのおしゃべりも中学生や若い人たちもずっと入るような感覚で聴けたし、曲も卒業にちなんだ聴きなれた曲だし、心地良かったかな、と中学生のつもりで聴いていました。

「卒園スペシャル」は、親の立場という感じで聴かせていただいたのですが、子どもたちの生の声は元気があっていいかなあ、と思いました。もうちょっと丁寧に感想を親のほうから聴くと身近に感じられたのかな、と。どれくらいのかたが聞かれたのか、時間帯がどうだったのか、私も

気になります。また、関係者の声でもいいので、聞いてどうだったか、もう 1 回聞いてみようという気持ちになったのか、リスナーの声を拾える機会になると思うので、今後生かしていただければ良いのではないかと思いました。

委員：両方ともけっこう面白かった。良い企画されたのではないかとくに「卒業…」の方、自分が中学を卒業したときにあれだけのことを言えたのかなあ、と 50 年ほど昔にさかのぼって思いました。若い中学生に感心しました。最後の D J の締めが一番良かった。企画意図が十分伝わった。「卒園…」の方ですが、子どもの声が音楽として、という話がありましたが、意図にも書かれている、子どもたちの元気な声をきく、ということで、私としてはほっとしたかなあ、という感じはしました。時間帯は気がかりではありましたが。

委員：私はどちらの番組も子を持つ親としては涙が出そうになるような、こんな時代があったなあ、というのはすごく感じます。また番組の構成も良かった。参加した子どもたちや親御さんの大半は聞いてくれているのだろうが、これだけ感動を呼ぶ番組を、そうでない人がきいたときに、僕が思ったようにあんな時代があったなあ、と思ってもらえるような番組をタッキーがつくっているという広がり、というか、そこでつながるひと工夫は欲しかった。リスナーを増やす工夫をエッセンスとしてどう入れるのか。

委員長：企画は良かった、というのがみなさんのご意見でした。その中で、2、3、これはどうかとおっしゃる部分がありましたので、それに対して事務局から答えられることがありましたらお願いします。

事務局：「オンガクノススメ」のほうですが、各学校に番組のポスターを掲示いただくようお願いしているのと、学校だよりに掲載していただいた学校もあります。今後はさらに広げて、公民館とかメイプルホールとかにもポスターを掲示できるようにしてみても良いと思います。

委員長：面白い企画だし、毎年卒業されるかたが自分の思いをラジオを通して訴

える一生に一回の機会。線を引いたときの心構えを発する言葉なので、みなさんの共感を呼び、影響力も大きい。こういう企画を上手に活かしていい芽を出していただければ。

「卒園…」の方はどうか。

事務局：時間帯については、自分の家庭を基準にすることがある。正直時間帯についてはこれからリサーチして適正な時間を見つけていきたい。何時くらいが良いでしょうか。

委員：たぶん、こういうターゲットにはどの時間がよいかをまとめたデータがどこかにある。はっきり言って、ターゲットが決まっているわけだから、幼稚園児のお母さん、30歳前後…マーケティング上一番難しい年代だが、たぶん調査はあるはずだ。

委員：「卒業を…」は出演者にとっては一生に一回のことで、こういう形で放送されるというのは、卒業の良いプレゼントになっているのでは。一生残るものなので、大変良い企画。録音状態も非常に良い。とても聴きやすかった。音楽の面から言うと、時代と共に流れる音楽というか…ありますよね？その音楽を聴けば当時の自分のことをきっちり思い出せる。そういう面とすごく合致していた。その音楽の強さと、メッセージを伝える良い企画だった。目的が絞り込んでいるというのが強さの番組。

「卒園…」は、4～5歳が対象ですか？

事務局：年長組なので、5歳くらい。

委員：ということは、卒業して小学1年生ですよね。それを考えると、ちょっと幼児っぽかったかな、と。1年生の入学式を見てると、ああ、小学生になってきた、というイメージがあるが、この放送を聞くとほんとうに幼稚園モードだな、という気がした。そのギャップも面白かったし、地域性がよくわかるという良さもあった。

事務局：本日ご欠席されている委員のかたからもご意見をいただいています。

「卒業…」 「卒園…」両番組の企画意図はしっかり反映されています。ま

たこのような番組は地域に根づくコミュニティ FM には欠かせないもの  
と思います。良い番組、悪い番組ということではなく、卒業・卒園とい  
う機会をどのように取り上げるかが重要であり、その意味では中学編で  
はリクエスト、また保育園編では子どもたちのうたということで無難に  
出来上がっています。

どちらも生の声を生かしてよくまとめられていると思います。そして、  
いつも思うことですが、企画意図にあるふだんラジオを聞いていないか  
たへのきっかけづくり、そしてリスナー増加をどう実現していくかです  
ね。一つ一つの番組が良くてもなかなかリスナーの開拓へ結びつかない  
ことが課題です。点と点から線へ、また面にしていくには、仕掛けが必  
要ではないでしょうか。

というご意見でした。

委員：今回震災のあと、いろいろなかたがラジオを通してさまざまな情報を得  
たり、ラジオで癒されたり、といったことがメディアでも取り上げられ  
ている。ラジオの意義を改めて思った。被災地の避難場所では、特に高  
齢のかたが必ず枕元にラジオを置いている映像が出る。やはりラジオな  
んだなと思いました。タレントのかたでも自分たちの番組を替えてメッ  
セージを送ったり、というのはさかんにやっている。ラジオの力ってす  
ごいなあ、特にコミュニティ放送は役割があるということを改めて感じ  
ました。

委員長：震災の中継をテレビでやっている中で、ラジオに癒されたとか、ラジオ  
が友だちですという言葉が出てきますよね。最近正直ラジオのことを忘  
れていましたが、またみなさんラジオを思い出して親しむようになって  
きたのでは。ここらで面白い企画を入れると、またきいていただけるよ  
うになるかもしれません。

委員：ラジオの持っている役割がテレビと違った役割で、特にこういうインフ  
ラがダメになると電池で動くというのはすごく魅力的。ラジオの必要性  
はうすうす感じてきているとは思う。そういう意味では、今がチャンス  
としてうまく捉えていけたら。

中学校は事前に広報活動があったと言っていたが、幼稚園はどういうこ

とを。

事務局：同じようにポスターを保育所・幼稚園に掲示してもらいました。あと、放送当日に館内放送で流してくれたところもあるようです。

委員長：特定の時間帯タッキーを聞いているとその話題でコミュニケーションもとれるし仲間に入っていけるし、ということで発信していくのは、難しいがすごい需要ですね。

委員：「神話のつくりかた」というのがあって、全員にきかせるのは難しいが、うまくどっかにタッチできれば、その人から口コミで伝わるというのがあるので、そういう意味ではやりやすい番組の一つなのでは。子どもをターゲットにしながら親を巻き込む、という。

委員：たぶん発想の転換が必要。要するに、この番組をどうしようか、という議論も必要だが、新しいターゲットに幼稚園の親たちを選んで、その人たちが聞いてもらえるような番組はなにかというところで、こういう卒園式を使おう、となると、時間帯も含め、たぶん組み立てが違う。お母さんたちの好きな音楽もちょっと入れながら流すというのも必要でしょうし。だから発想を変えてみて、ターゲットにどういうふういきいてもらうか、という観点で組み立てると、時間とか個々の声の録り方は違ってくる可能性がある。

委員：同じようなことを考えていました。場所を変えて、公共の人がいるような場所で収録するというのはどうでしょうか。タッキーがどこかで出前コンサートみたいなものやっていたなあ、みたいなものが、ちゃんと横断幕も作ってやってみたらあの番組のやつをやっているのだな、というのが分かる。

委員：「卒園…」ならできそう。二十何園全部やろうと思うと無理があるので、とりあえず1～2園でもやればあとは波及する可能性がある。

事務局：ここで、一つ報告させていただきます。実は4月22日(金)に日本コミ

ユニティ放送協会の近畿地区 28 局ほど集まり、「近畿コミュニティ放送賞」が開催されました。タッキーでは情報教育番組に「消費生活 Q&A」、特別番組部門に「タッキースペシャル みのお PR DAY」、放送活動部門に「箕面版ラジオ体操・ゆずる体操」を応募しました。「消費生活 Q&A」は 2 位に入ったのですが、優秀賞には選ばれませんでした。また、放送活動部門につきましては、残念ながら入賞はできませんでしたが 4 位に入りました。

委員：上位の作品の共通性は。

事務局：手間がすごくかかっていました。あと視点・発想。特別番組で入賞したものは震災のテーマのものがほとんどだった。あと、楽しんで作っているのが伝わるものが多い。あとは、アイデアや共有できるか、ということ。

委員長：見たもの、あるものをそのまま伝えることが放送みたいな感じがあるが、その起きたことを伝えながら、考えさせる、想像させるということまでもっていかなければ、情報の価値がなくなってきて前に進めないということが確かにある。そこまでのレベルに持っていければ興味が湧くのは。難しいことだが、そこまでいければ。

委員：一つ PR を。先ほど申し上げたとおり、震災になるとラジオが重要になってくる。そのためには日頃から聞いていただくというのが必要。タッキーをたくさんの人に聞いてもらいたい、ということで勝手に「タッキー 816 応援団」を立ち上げようかと思っています。5 月 13 日に第 1 回の設立説明会を開きます。ぜひみなさんも含めお仲間を。大きく分けて 3 つの段階を考えていて、1 つはどの地域が聞こえにくいかわかるという調査をすること、2 つ目はタッキーさんから早めに番組の情報をいただいて面白そうな番組を、我々のネットワークを通じて宣伝すること。3 つ目は、体制を整えば、企画を含め番組の自主制作ができればいいと考えています。本とラジオは同じくくり、テレビと違って想像力を使うということで名作劇場といった類をやる、ということもあるでしょう。あるいは、NPO が企画をするというときには出演者の交渉の仕方も違ってくるか



もしれない。また、助成金が取れば、という前提だが、東北のラジオ局の方に箕面に来てもらって講演していただくという広がりがでくるように、応援団を勝手に作りたいな、と思っています。とりあえずは20人くらいでスタートできればと思っています。

委員長：これにて第29回番組審議委員会を閉会致します。  
ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://fm.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成23年4月26日

箕面FMまちそだて株式会社      番組審議会